

三菱ケミカルグループが田辺三菱製薬を譲渡—格付への影響は限定的

以下は、三菱ケミカルグループ株式会社（証券コード：4188）が、田辺三菱製薬株式会社の譲渡を発表したことに對する、株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は7日、グループのファーマ事業を担う田辺三菱製薬の全株式を、ペインキャピタル傘下の特別目的会社に譲渡する契約を締結したことを発表した。譲渡は、当社定時株主総会での決議や各種許認可等の取得を経て、26/3期第2半期に実行される予定。譲渡対価は約5,100億円で、約950億円の譲渡益が計上される見込みである。なお、譲渡により得られる資金は、新中期経営計画2029で計画している注力事業領域の設備投資・投融資のほか、新たな成長投資や有利子負債の返済、株主還元に充当される予定となっている。
- (2) 田辺三菱製薬は、グループにおける医療用医薬品やライフサイエンスの事業基盤強化を目的に当社が株式公開買い付けを行い、20年3月に完全子会社化した。足元のファーマ事業の業績は、完全子会社化時に成長を牽引する後期開発パイプラインの一つとして位置付けたALS治療薬「ラジカヴァ」経口剤の北米での拡販などで堅調に推移している。また、これまで資金面でもグループに貢献してきた。ただ、治療薬が進化しモダリティが多様化するなか、当該事業の持続的な成長に向けては研究開発能力の強化と、そのための大規模な投資の負担が課題となっていた。このため、24年11月に発表された経営方針では、当該事業についてはベストパートナーを探索するとの方針が示されていた。
- (3) 譲渡が実行された場合、安定収益源が無くなるため、当面のグループ業績に及ぼすインパクトは小さくない。ただ、本件によってグループはケミカルズ事業の成長に一層注力する体制にシフトできる。また、資本面の棄損はなく、有利子負債削減に関してはサポート材料になると考えられる。このためJCRでは、現状、本件による格付への影響は限定的と判断している。引き続き、事業の選別や規律ある事業運営などを通じて収益性を引き上げ、財務構成を改善させていけるか注視していく。

(担当) 殿村 成信・藤田 剛志

【参考】

発行体：三菱ケミカルグループ株式会社

長期発行体格付：A+ 見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル